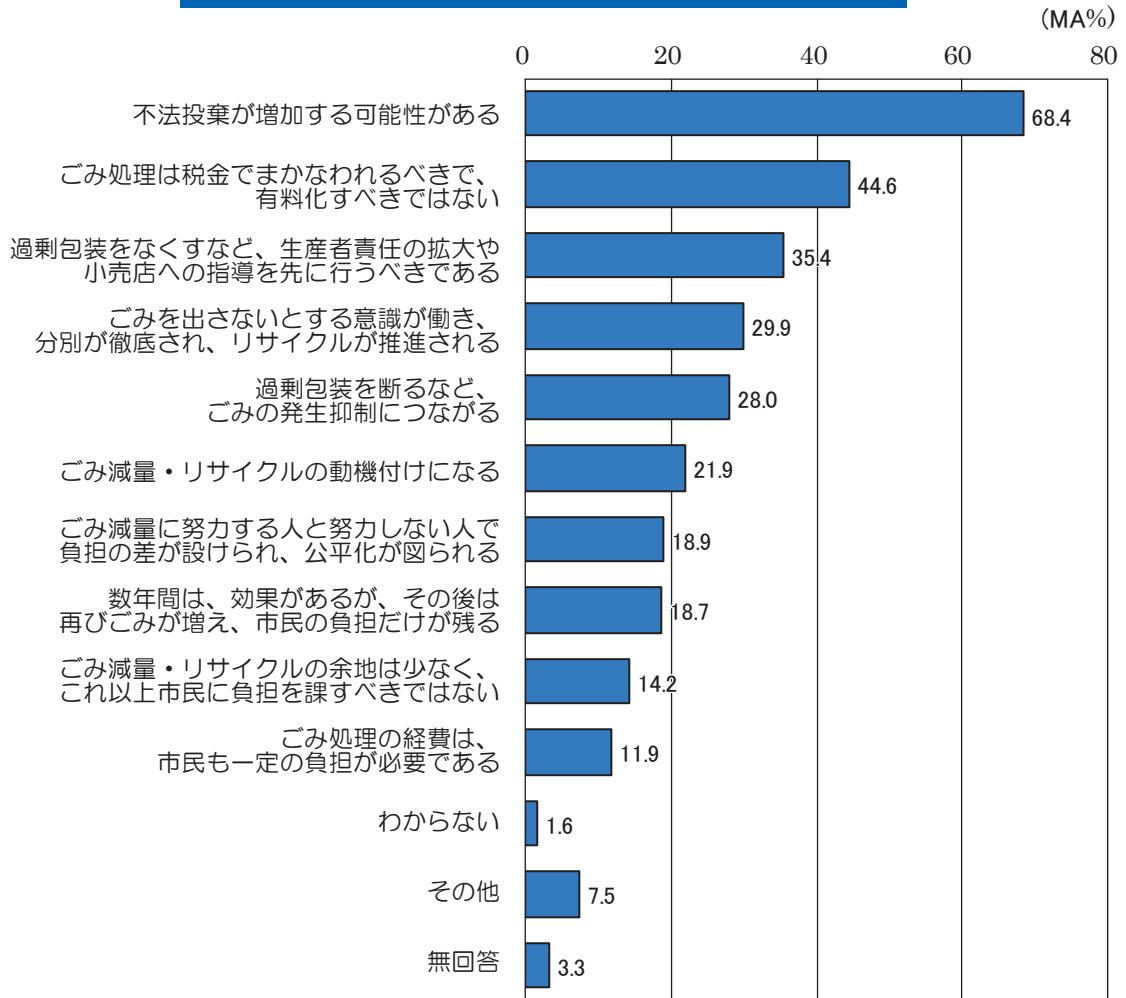


### 3. 家庭ごみの有料化について

問10 あなたは、家庭ごみの有料化について、どのような考えをお持ちですか？（〇はいくつでも）

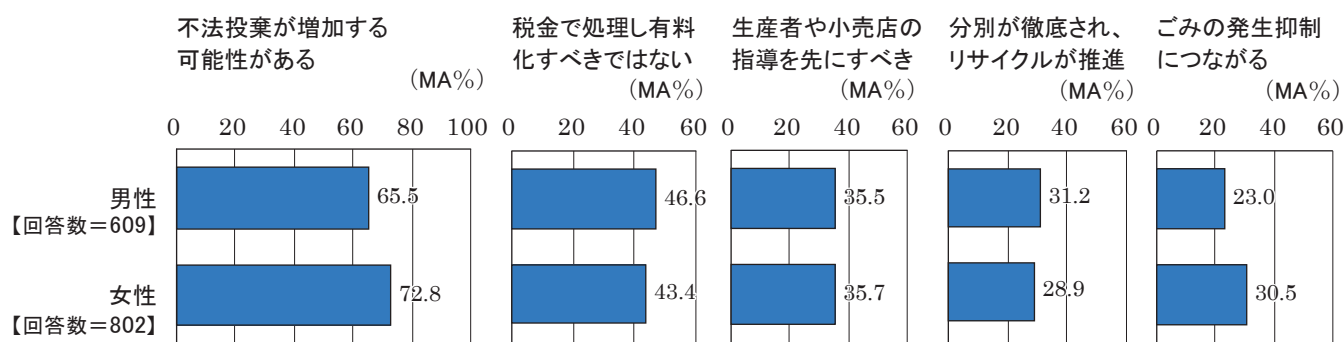
図 3-1 家庭ごみの有料化についての考え（複数回答）



【回答数=1,645】

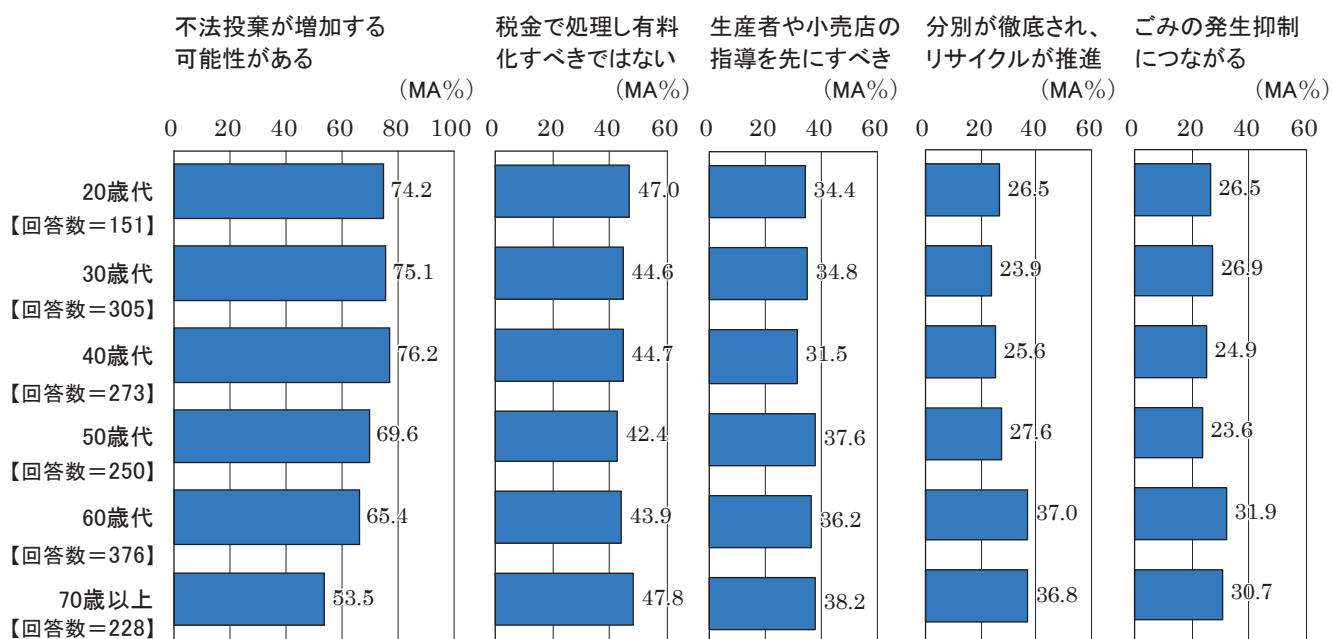
家庭ごみの有料化についての考え（複数回答）をたずねた。「不法投棄が増加する可能性がある」が 68.4%と最も高く、以下「ごみ処理は税金でまかなわれるべきで、有料化すべきではない」（44.6%）、「過剰包装をなくすなど、生産者責任の拡大や小売店への指導を先に行うべきである」（35.4%）、「ごみを出さないとする意識が働き、分別が徹底され、リサイクルが推進される」（29.9%）、「過剰包装を断るなど、ごみの発生抑制につながる」（28.0%）、「ごみ減量・リサイクルの動機付けになる」（21.9%）などの順となっている。（図 3-1）

図 3-2 性別 家庭ごみの有料化についての考え《上位 5 項目》（複数回答）



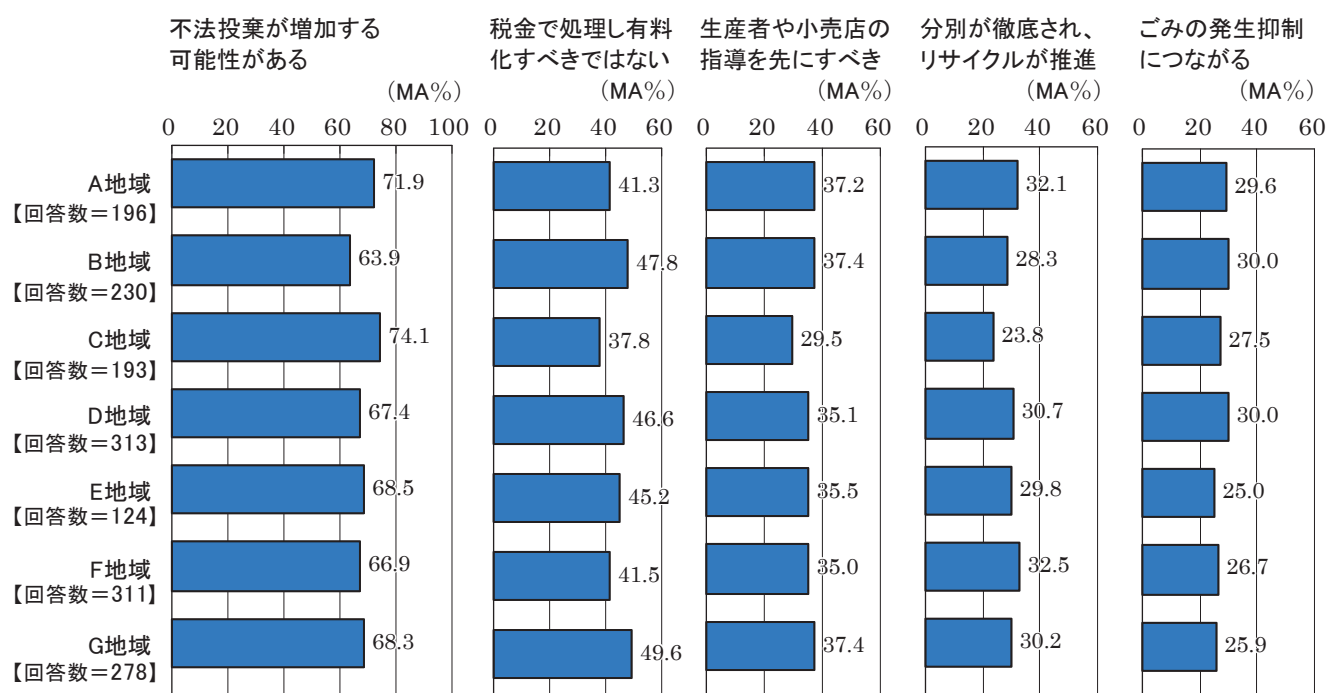
性別に上位 5 項目をみると、「不法投棄が増加する可能性がある」は、女性が男性に比べ 7.3 ポイント高く、「ごみ処理は税金でまかなわれるべきで、有料化すべきではない」は、男性が 3.2 ポイント高くなっている。（図 3-2）

図 3-3 年代別 家庭ごみの有料化についての考え《上位 5 項目》（複数回答）



年代別に上位 5 項目をみると、「不法投棄が増加する可能性がある」は、40 歳代が 76.2% と最も高く、70 歳以上（53.5%）は他の年代に比べて低くなっている。「ごみ処理は税金でまかなわれるべきで、有料化すべきではない」は、70 歳以上が 47.8% と最も高く、50 歳代（42.4%）は他の年代に比べて低くなっている。「過剰包装をなくすなど、生産者責任の拡大や小売店への指導を先に行うべきである」は、70 歳以上が 38.2% と最も高く、40 歳代（31.5%）は他の年代に比べて低くなっている。（図 3-3）

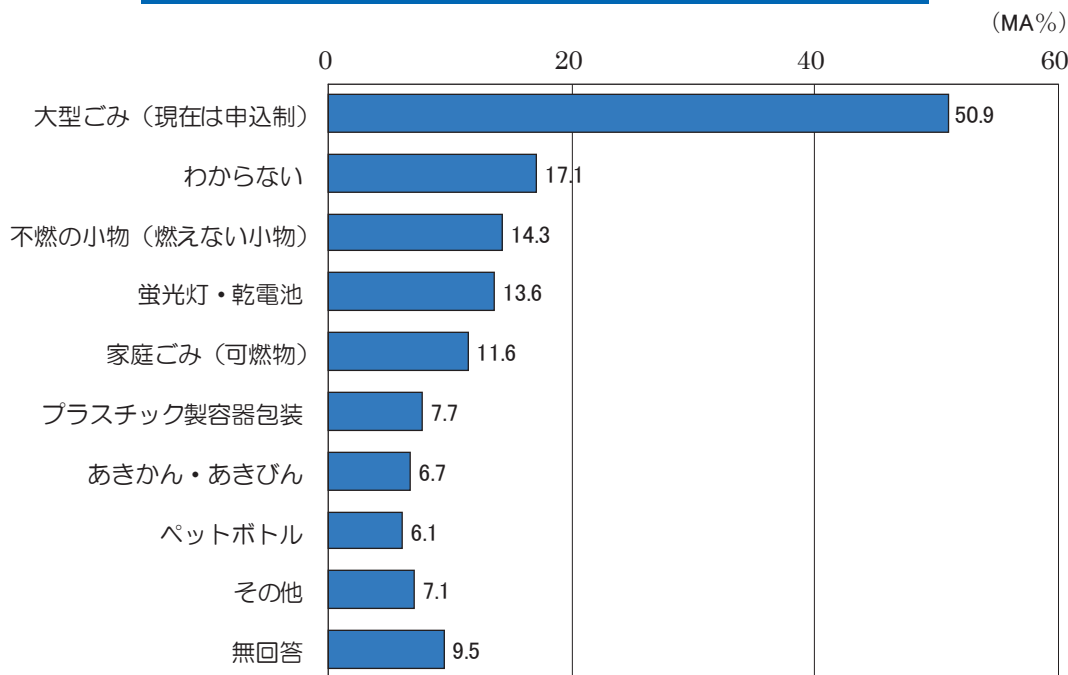
図 3-4 地域別 家庭ごみの有料化についての考え《上位 5 項目》（複数回答）



地域別に上位 5 項目をみると、「不法投棄が増加する可能性がある」は、C 地域が 74.1% と最も高く、B 地域（63.9%）は他の地域に比べて低くなっている。「ごみ処理は税金でまかなわれるべきで、有料化すべきではない」は、G 地域が 49.6% と最も高く、C 地域（37.8%）は他の地域に比べて低くなっている。「過剰包装をなくすなど、生産者責任の拡大や小売店への指導を先に行うべきである」は、B 地域と G 地域がともに 37.4% と最も高くなっている。（図 3-4）

問11 家庭ごみの有料化を導入している市町村では、可燃ごみだけ有料、資源ごみも減額して有料など、有料化の対象となるごみの種類が市町村ごとに違ってきます。あなたは、有料化を実施する場合、本市のごみの分別で、有料化の対象として妥当だと思うのは次のどれですか？（〇はいくつでも）

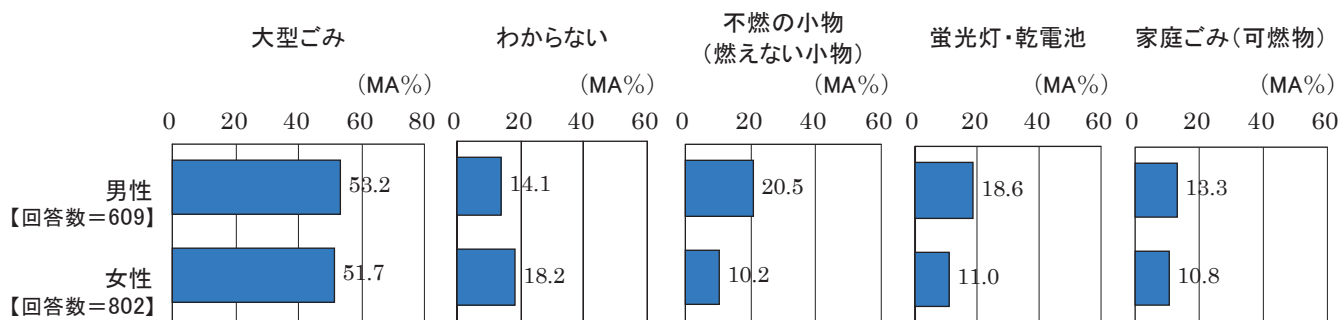
図 3-5 有料化の対象として妥当だと思うもの（複数回答）



【回答数=1,645】

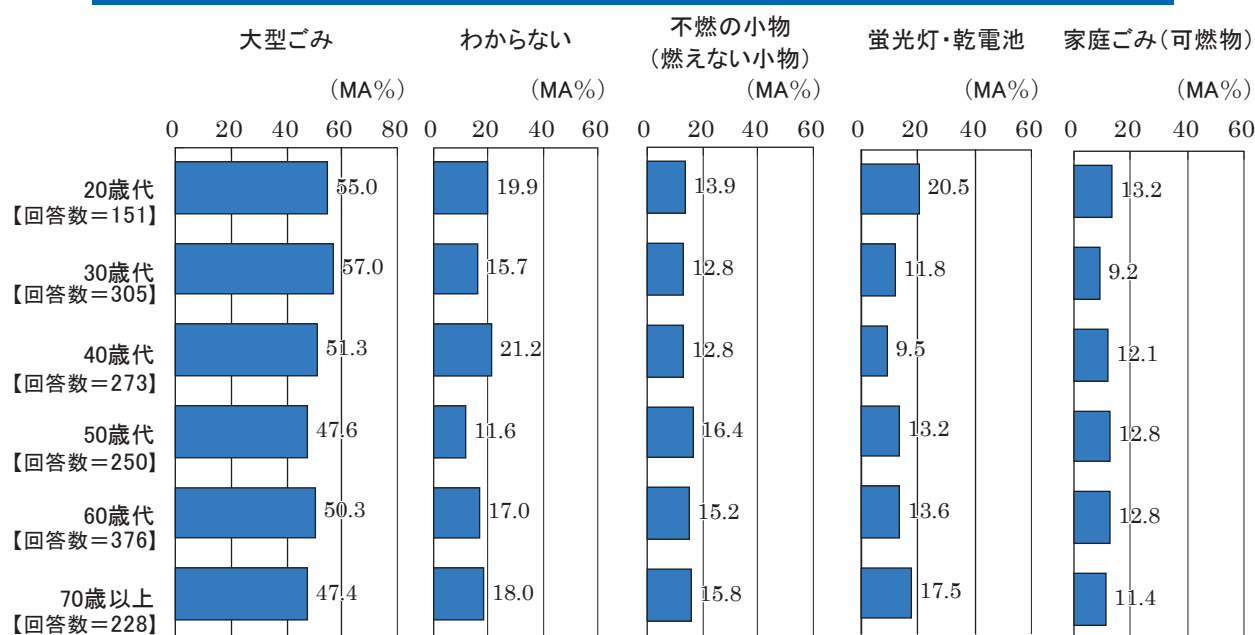
家庭ごみの有料化を実施する場合に対象として妥当と思うもの（複数回答）についてたずねた。「大型ごみ（現在は申込制）」が 50.9%と最も高く、以下「わからない」（17.1%）、「不燃の小物（燃えない小物）」（14.3%）、「蛍光灯・乾電池」（13.6%）、「家庭ごみ（可燃物）」（11.6%）などの順となっている。（図 3-5）

図 3-6 性別 有料化の対象として妥当だと思うもの《上位5項目》（複数回答）



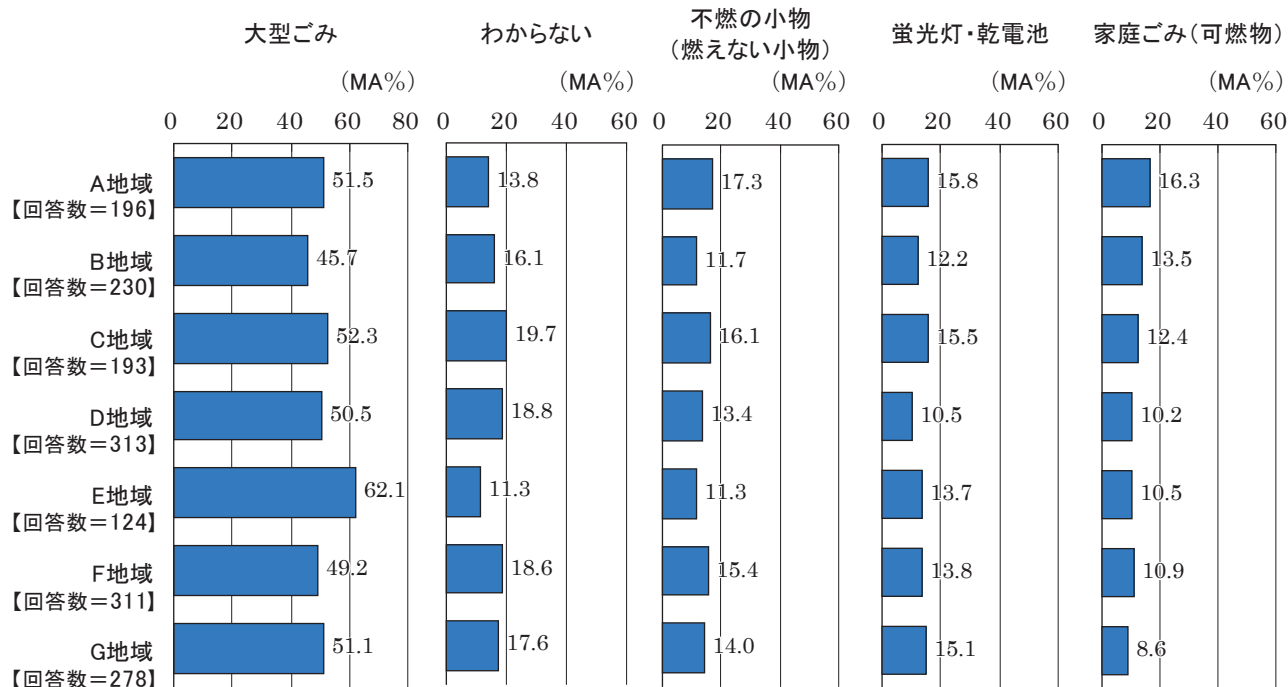
性別に上位 5 項目をみると、「不燃の小物（燃えない小物）」は、男性が女性に比べて 10.3 ポイント高く、「蛍光灯・乾電池」も男性が 7.6 ポイント高くなっている。（図 3-6）

図 3-7 年代別 有料化の対象として妥当だと思うもの《上位 5 項目》（複数回答）



年代別に上位 5 項目をみると、「大型ごみ」は 30 歳代が 57.0%と最も高く、70 歳以上 (47.4%) は他の年代に比べて低くなっている。「わからない」は 40 歳代が 21.2%と最も高く、「不燃の小物 (燃えない小物)」は 50 歳代が 16.4%と最も高くなっている。また、「蛍光灯・乾電池」は 20 歳代が 20.5%と最も高くなっている。(図 3-7)

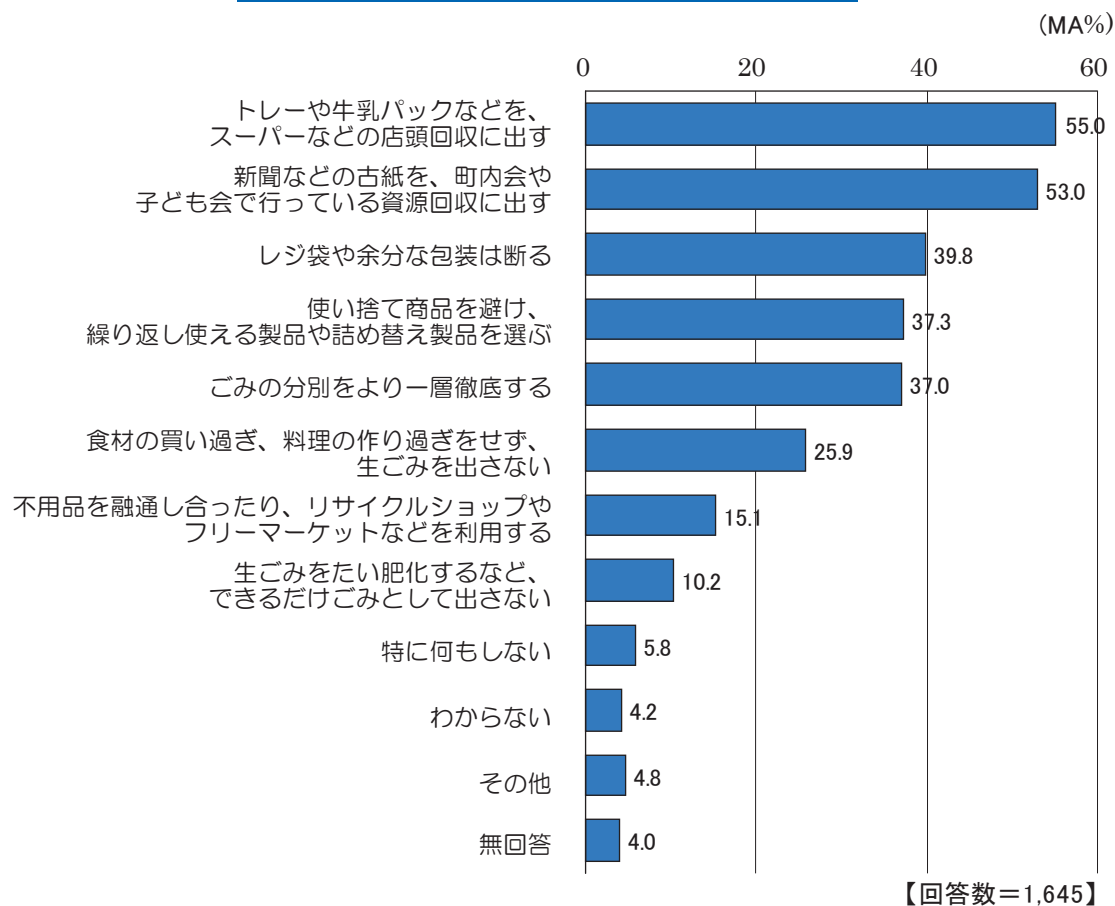
図 3-8 地域別 有料化の対象として妥当だと思うもの《上位 5 項目》（複数回答）



地域別に上位 5 項目をみると、「大型ごみ」は E 地域が 62.1%と最も高く、B 地域 (45.7%) は他の地域に比べて低くなっている。「わからない」は C 地域が 19.7%、「不燃の小物 (燃えない小物)」は A 地域が 17.3%と最も高くなっている。また、「蛍光灯・乾電池」と「家庭ごみ (可燃物)」は A 地域がそれぞれ 15.8%、16.3%と最も高くなっている。(図 3-8)

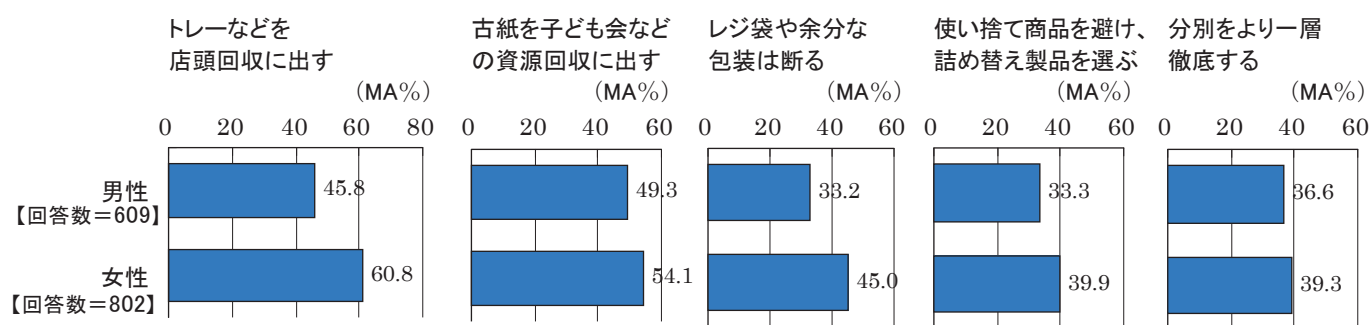
問12 あなたは、家庭ごみが有料化された場合、どのような対応をしますか？（〇はいくつでも）

図 3-9 有料化された場合の対応（複数回答）



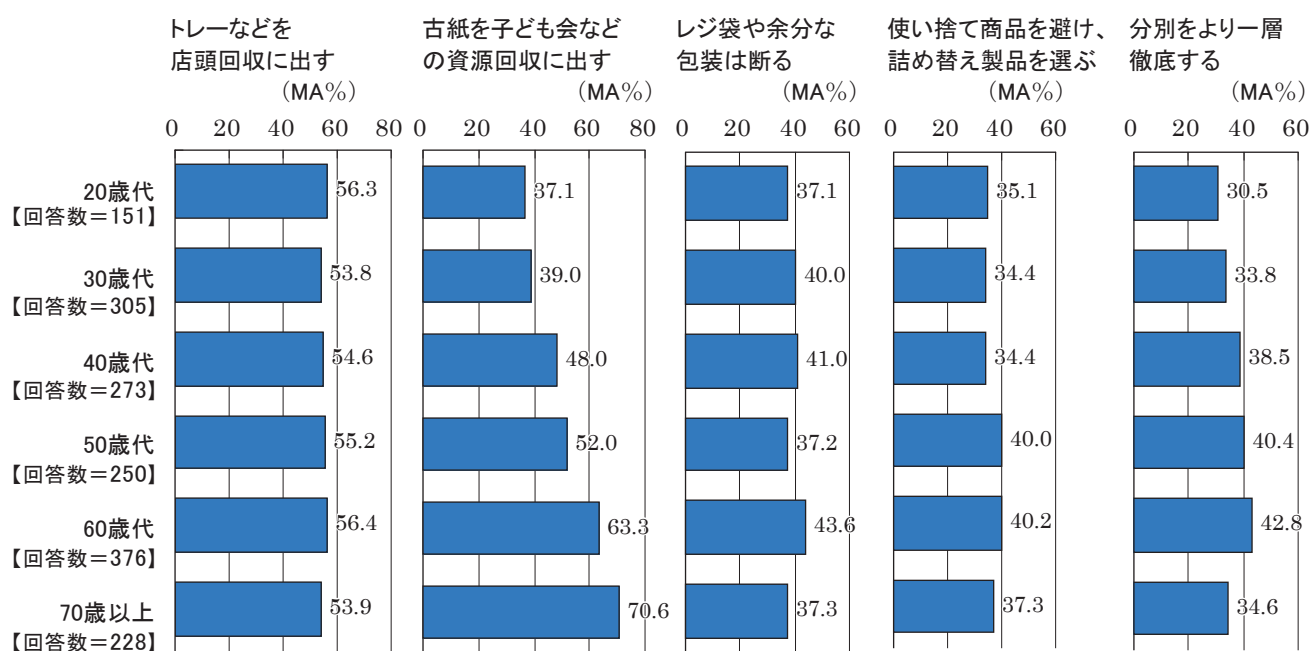
家庭ごみが有料化された場合の対応（複数回答）をたずねた。「トレーや牛乳パックなどを、スーパーなどの店頭回収に出す」が 55.0%と最も高く、以下「新聞などの古紙を、町内会や子ども会で行っている資源回収に出す」（53.0%）、「レジ袋や余分な包装は断る」（39.8%）、「使い捨て商品避け、繰り返し使える製品や詰め替え製品を選ぶ」（37.3%）、「ごみの分別をより一層徹底する」（37.0%）、「食材の買い過ぎ、料理の作り過ぎをせず、生ごみを出さない」（25.9%）などの順となっている。（図 3-9）

図 3-10 性別 有料化された場合の対応《上位 5 項目》（複数回答）



性別に上位 5 項目をみると、「トレーや牛乳パックなどをスーパーなどの店頭回収に出す」は男性に比べて女性が 15.0 ポイント高く、また「使い捨て商品を選び、繰り返し使える製品や詰め替え製品を選ぶ」は女性が 6.6 ポイント高いなど全般的に女性の方が高くなっている。（図 3-10）

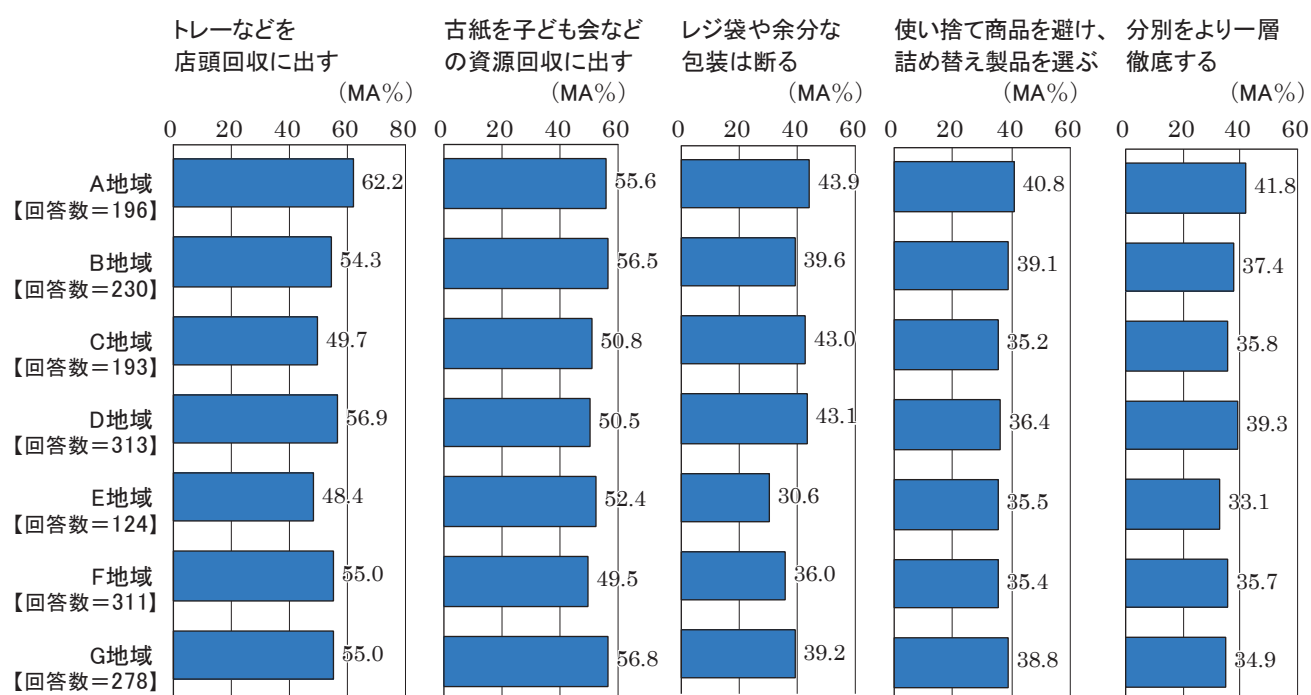
図 3-11 年代別 有料化された場合の対応《上位 5 項目》（複数回答）



年代別に上位 5 項目をみると、「トレーや牛乳パックなどを、スーパーなどの店頭回収に出す」は 60 歳代が 56.4%と最も高く、いずれも 5 割を超えている。「新聞などの古紙を、町内会や子ども会で行っている資源回収に出す」は 70 歳以上が 70.6%と最も高く、年齢が高くなるほどその割合が高くなっている。

「レジ袋や余分な包装は断る」と「使い捨て商品を選び、繰り返し使える製品や詰め替え製品を選ぶ」、「ごみの分別をより一層徹底する」は他の年代に比べ 60 歳代が最も高くなっている。（図 3-11）

図 3-12 地域別 有料化された場合の対応《上位 5 項目》（複数回答）

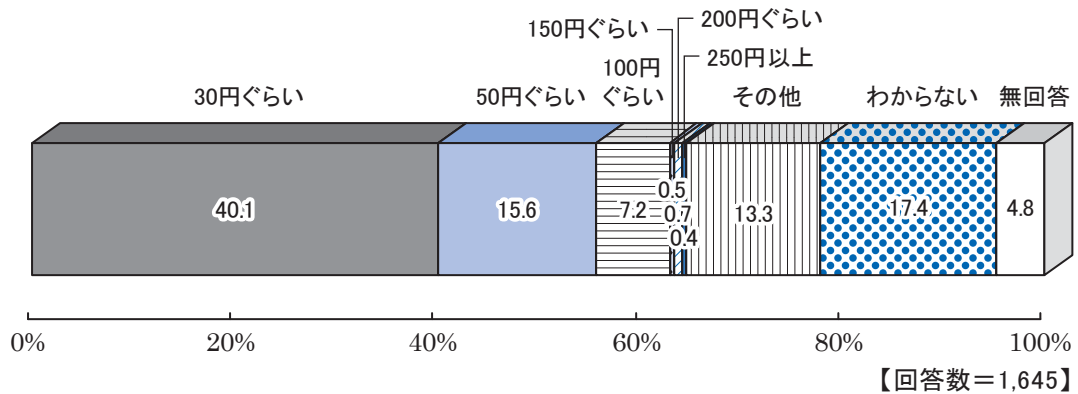


地域別に上位 5 項目をみると、「トレーや牛乳パックなどを、スーパーなどの店頭回収に出す」は A 地域が 62.2%と最も高く、E 地域（48.4%）は他の地域に比べて低くなっている。「新聞などの古紙を、町内会や子ども会で行っている資源回収に出す」は G 地域が 56.8%と最も高く、F 地域（49.5%）を除いた他の地域では 5 割を超えている。「レジ袋や余分な包装は断る」と「使い捨て商品を選び、繰り返し使える製品や詰め替え製品を選ぶ」と「ごみの分別をより一層徹底する」は A 地域が最も高くなっている。（図 3-12）



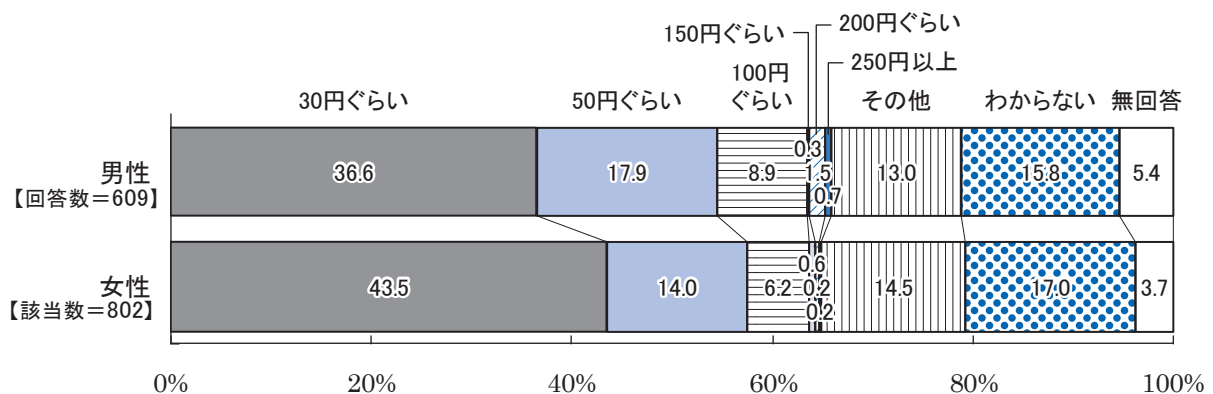
問13 家庭ごみが有料化された場合、あなたのご家庭では、ごみ処理手数料（標準 45 ㍻のごみ袋 1 個分）としてどの程度の負担額なら適正と考えますか？（○は 1 つだけ）

図 3-13 ごみ処理手数料の負担適正額



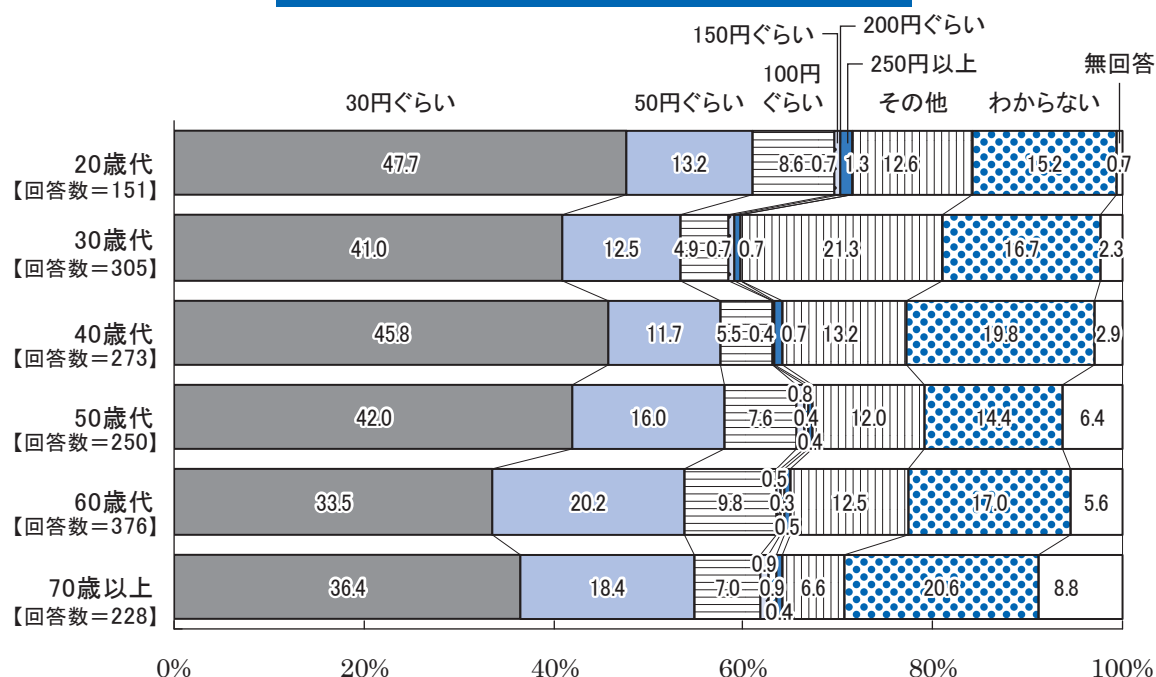
家庭ごみが有料化された場合のごみ処理手数料の適正な負担額をたずねた。「30 円ぐらい」が 40.1%と最も高く、次いで「わからない」が 17.4%、「50 円ぐらい」が 15.6%、「その他」が 13.3%、「100 円ぐらい」が 7.2%となっている。（図 3-13）

図 3-14 性別 ごみ処理手数料の負担適正額



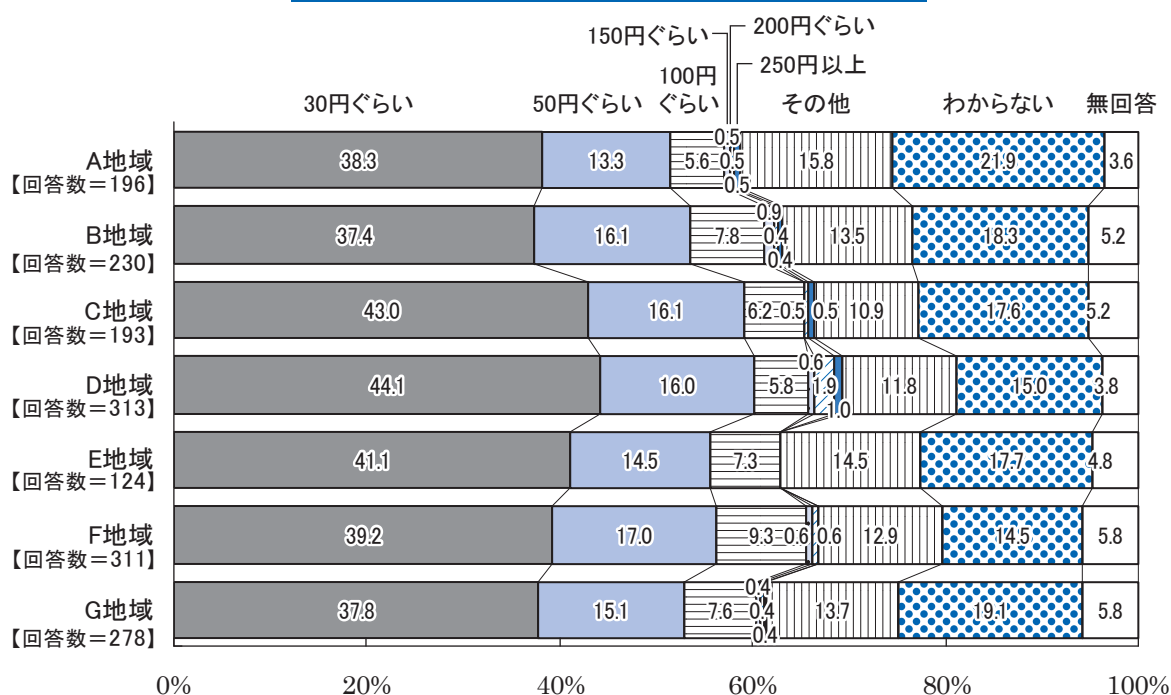
性別にみると、「30 円ぐらい」は女性が男性に比べて 6.9 ポイント高く、「50 円ぐらい」は男性が女性に比べて 3.9 ポイント高くなっている。（図 3-14）

図 3-15 年代別 ごみ処理手数料の負担適正額



年代別にみると、いずれも「30 円ぐらい」が最も高くなっており、20 歳代から 50 歳代までは 4 割を超えている。（図 3-15）

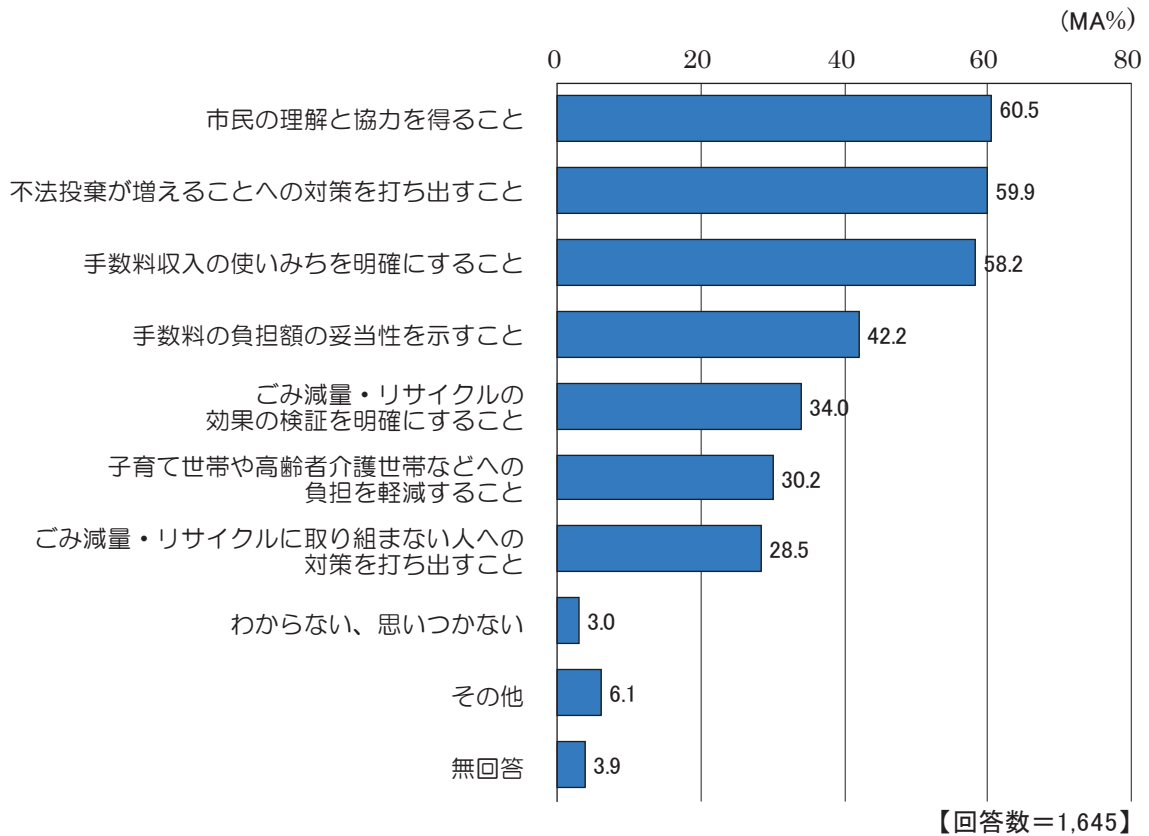
図 3-16 地域別 ごみ処理手数料の負担適正額



地域別にみると、「30 円ぐらい」は、D 地域（44.1%）、C 地域（43.0%）、E 地域（41.1%）が 4 割を超えており、「50 円ぐらい」は F 地域が 17.0%、B 地域と C 地域が 16.1%と高くなっている。「わからない」は A 地域（21.9%）と G 地域（19.1%と）が高くなっている。（図 3-16）

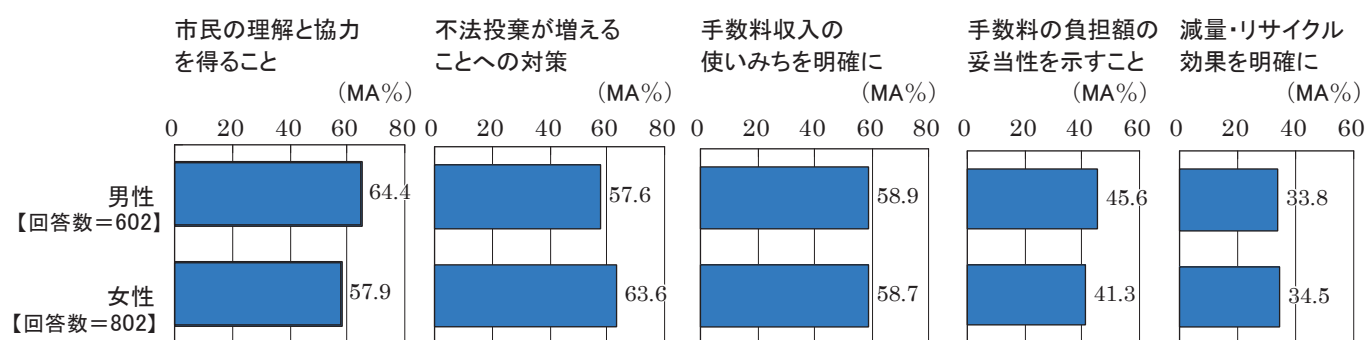
問14 あなたは、家庭ごみの有料化を実施する場合に、どのようなことを考慮すべきと考えますか？（〇はいくつでも）

図 3-17 家庭ごみ有料化の実施で考慮すべきこと（複数回答）



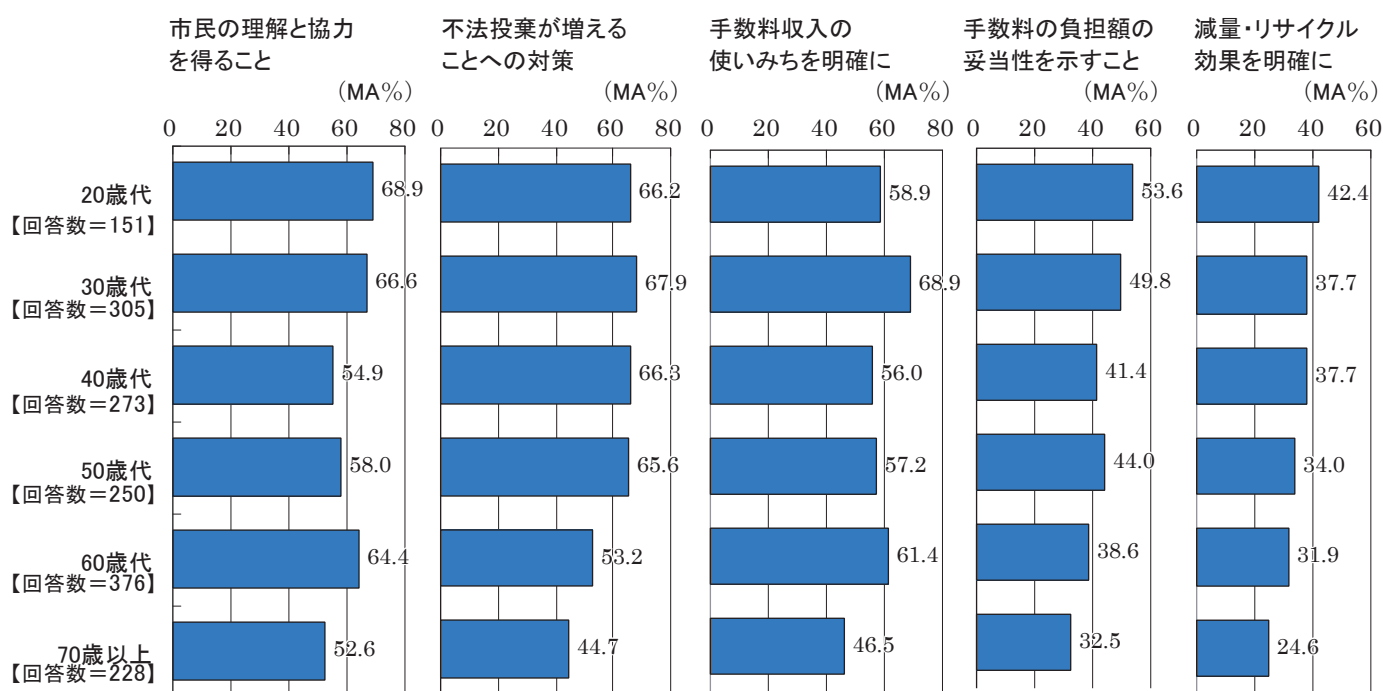
家庭ごみの有料化を実施する場合に考慮すべきこと（複数回答）をたずねた。「市民の理解と協力を得ること」が 60.5%と最も高く、以下「不法投棄が増えることへの対策を打ち出すこと」（59.9%）、「手数料収入の使いみちを明確にすること」（58.2%）、「手数料の負担額の妥当性を示すこと」（42.2%）などの順となっている。（図 3-17）

図 3-18 性別 家庭ごみ有料化の実施で考慮すべきこと《上位 5 項目》（複数回答）



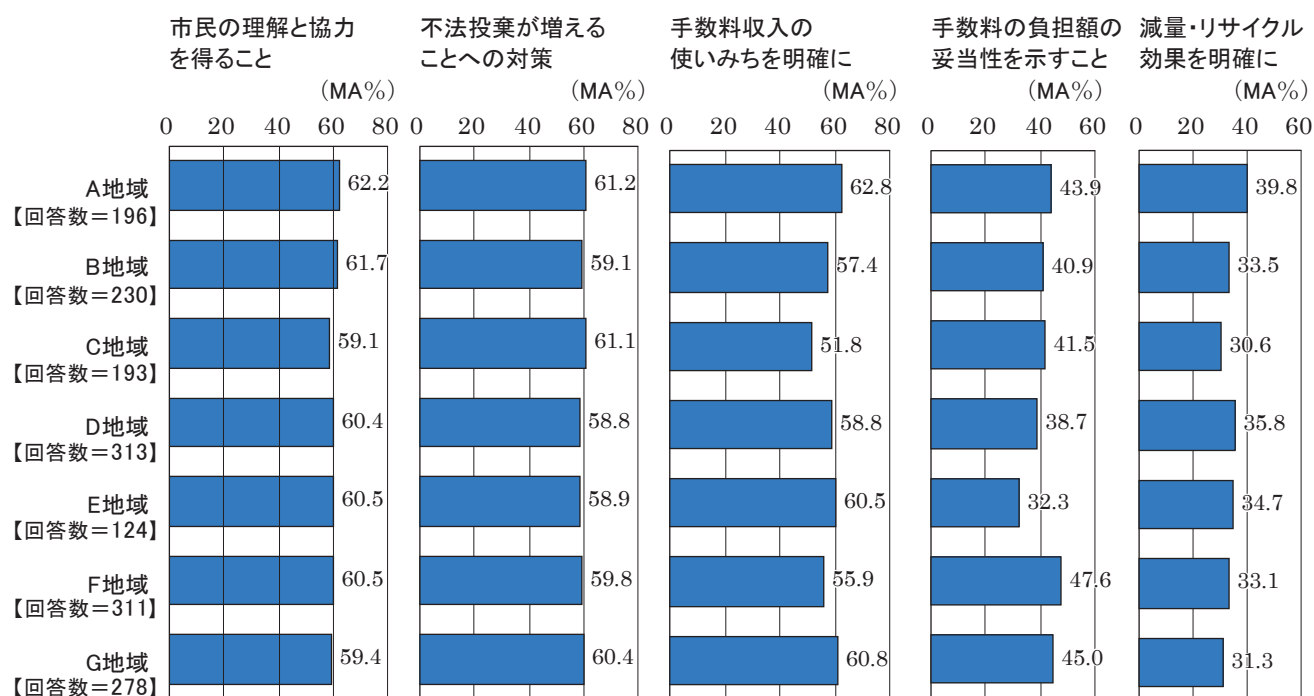
性別に上位 5 項目をみると、「市民の理解と協力を得ること」は、男性が女性に比べ 6.5 ポイント高く、「不法投棄が増えることへの対策を打ち出すこと」は、女性が男性に比べ 6.0 ポイント高くなっている。「手数料収入の使いみちを明確にすること」と「ごみ減量・リサイクルの効果の検証を明確にすること」は男女ともほぼ同じとなっている。「手数料の負担額の妥当性を示すこと」は男性が女性に比べ 4.3 ポイント高くなっている。（図 3-18）

図 3-19 年代別 家庭ごみ有料化の実施で考慮すべきこと《上位 5 項目》（複数回答）



年代別に上位 5 項目をみると、「市民の理解と協力を得ること」は、20 歳代が 68.9%と最も高く、いずれも 5 割を超えている。「不法投棄が増えることへの対策を打ち出すこと」は、30 歳代が 67.9%と最も高く、また、「手数料収入の使いみちを明確にすること」は、30 歳代が 68.9%と最も高く、ともに 70 歳以上を除いた年代で 5 割を超えている。「手数料の負担額の妥当性を示すこと」と「ごみ減量・リサイクルの効果の検証を明確にすること」は、20 歳代がそれぞれ 53.6%、42.4%と最も高くなっている。（図 3-19）

図 3-20 地域別 家庭ごみ有料化の実施で考慮すべきこと《上位 5 項目》（複数回答）



地域別に上位 5 項目をみると、「市民の理解と協力を得ること」と「不法投棄が増えることへの対策を打ち出すこと」、「手数料収入の使いみちを明確にすること」、「ごみ減量・リサイクルの効果の検証を明確にすること」は、A 地域が最も高くなっている。また、「手数料の負担額の妥当性を示すこと」は、F 地域が最も高くなっている。（図 3-20）